

2004(平成16)年度

日本語教育研究コース

第1期

[2004年4月～7月]

募集要項

社団法人日本語教育学会

1. コースの目的

海外および日本国内において、日本語学習者の学習目的や学習環境はますます多様になってきています。日本語教育学会は、このような状況に積極的に対応するために、現職者を対象とした「日本語教育研究コース」を実施しています。

この研修は、主に海外で日本語教育に従事する意志を持った人々を対象として、海外諸機関で日本語の学習指導のみならず、カリキュラム編成、教材作成、教師研修への支援等に携わる人材を養成することを目的としています。従って研究能力、実務能力を併せ持った教師を育成することを目標にコース内容を設定しています。

この事業は国際交流基金の助成を受けて行うものです。

2. コース内容

教師が日ごろの自分の役割を捉え直し、新しい知識、技術を修得して次の展開を図る、また課題を探究する機会とすることができるよう、今期は「研究論文コース 論文基礎」、「テーマ別研究コース 「中級」を考える - 聴解と会話を中心として -」、「海外アドバイザー活動研究コース」、オンライン研究コース「外国人児童・生徒のための日本語教育を考える」、オンライン研究コース「教材作成実践プログラム」を設けます。

なお、複数のコースを並行して受講することはできません。

(1)研究論文コース「論文基礎」

コーディネーター：柏崎雅世，馬場眞知子

「論文基礎」は、日本語教育の現場経験やデータなどを持っていて、それを論文にまとめてみたいと思っているものの、その手法がわからない人のために、テーマの選定、研究の方法、論文の構成要素などを、先行研究論文を題材として講師とともに学ぶコースです。

第1期は、テーマの選定や内容を絞り込んでいくことを目的に、日本語教育に関連した様々な分野における研究内容を学んでいきます。

【第2期予定】

教育現場での経験やデータなどを論文にまとめるためのアプローチの方法や手法を学ぶコースです。具体的には、教育活動、現場での観察、様々な調査などからどのように論文にアプローチするかという内容を予定しています。

講 師：池上摩希子，石井恵理子，熊谷智子，迫田久美子，早津恵美子，松田文子

回	月 日	活 動 内 容	講 師
1	4月 9日(金)	開講式・オリエンテーション 日本語教育研究概論	石井恵理子
2	4月16日(金)	文法を考える(1) ヴォイスを中心に	早津恵美子
3	4月23日(金)	文法を考える(2) ヴォイスを中心に	早津恵美子
4	5月 7日(金)	第二言語習得を考える(1)	迫田久美子
5	5月14日(金)	第二言語習得を考える(2)	迫田久美子
6	5月21日(金)	研究計画中間発表	コーディネーター 柏崎・馬場
7	5月28日(金)	語彙を考える(1) 複合動詞を中心に	松田文子

8	6月4日(金)	語彙を考える(2) 複合動詞を中心に	松田文子
9	6月11日(金)	言語行動を考える(1) 談話を中心に	熊谷智子
10	6月18日(金)	言語行動を考える(2) 談話を中心に	熊谷智子
11	6月25日(金)	年少者教育を考える	池上摩希子
12	7月2日(金)	研究計画発表会	コーディネーター 柏崎・馬場

(2)テーマ別研究コース「「中級」を考える - 聴解と会話を中心として - 」

コーディネーター：齊藤真理子，河野俊之，文野峯子

初級レベルの教え方についてはある程度共通した見解ができつつあると言えるでしょうが、中級レベルについては学習者も多様であり、何をどのように教えるかについて悩むことが多いのではないのでしょうか。

本コースでは、聴解能力と会話能力養成における最近の研究に基づき、特に中級レベルの学習者への支援の方策を考えます。

講義を聴くだけでなく、話し合い、発表する中での学びを大切にしていきたいと考えています。聴解・会話教育に経験と関心を持つ積極的な教師にぜひ参加してほしいと思います。

講師：荻原稚佳子，清ルミ，竹蓋幸生，松崎寛，三井豊子，山内博之

回	月日	活動内容	講師
1	4月9日(金)	オリエンテーション 聴解1	コーディネーター 竹蓋幸生
2	4月16日(金)	聴解2	三井豊子
3	4月23日(金)	聴解3 ディスカッション	竹蓋幸生 コーディネーター
4	5月7日(金)	聴解4	松崎寛
5	5月14日(金)	聴解5	松崎寛
6	5月21日(金)	教材作成演習1	コーディネーター
7	5月28日(金)	会話1	清ルミ
8	6月4日(金)	会話2	山内博之
9	6月11日(金)	会話3	清ルミ
10	6月18日(金)	会話4	荻原稚佳子
11	6月25日(金)	教材作成演習2	コーディネーター
12	7月2日(金)	教材作成演習3	コーディネーター

(3)海外アドバイザー活動研究コース

コーディネーター：加納陸人，八田直美，古川嘉子（予定）

近年，海外における日本人日本語教師の役割や求められる資質・知識・技能が多様化してきています。具体的には従来のように母語話者教師として実際に学習者に対する教育に携わるだけでなく，教材開発や同僚教師の指導，日本語教育情報の提供，現地ネットワーク作りなど多岐にわたる役割が求められるようになってきています。実際にそうした役割を果たしている教師も多数います。このようなアドバイザー的な役割・存在の要請は今後ますます高まると考えられます。

本コースでは，このような海外で活動する日本語教育アドバイザーの資質や，アドバイザーに必要な知識・経験・姿勢とはどのようなものか，そしてそれらを身につけるにはどうしたらいいかを探求していきます。特に，それぞれの教育環境における問題・課題の発見，問題解決・課題達成方法の探究，周囲と協力しながら限られた条件・状況の中で目標達成，問題解決を行う能力を，参加者自らの体験を通して考え，獲得することを目指します。具体的には，以下のいずれかのグループ・プロジェクトを企画・立案し，その準備，実施を課題とします。

A) 受講者が，海外の日本語教育支援に関するテーマを設定し，それに沿って自らの経験を通して語る「海外の日本語教育支援を考えるシンポジウム」

B) 受講者が講師となる「教師のためのセミナーまたはワークショップ」

過去の実施例：「文化理解のためのワークショップ」「よりよい教師研修をめざして(アンケート作成方法とビデオを使った教え方)」「共に学ぶ教師研修 ロールプレイを使って」「カリキュラム研究」「インターネットを利用した教材作成」

上に挙げたアドバイザーに求められる能力・資質は，国内で活動している主任講師，コーディネーター等の役割にも共通するものが多く，また海外と国内の日本語教育は様々な面でつながりがあります。そこで，今回のコースでは国内の学校や地域に関わるテーマも扱うこととします。

なお，このコースはグループ活動を主とする内容のため最小催行人数を8名とします。

(本コースの修了は国際交流基金の海外派遣に直接結びつくものではありません。)

	月 日	内 容	講 師
1	4月 9日(金)	オリエンテーション・ワークショップ体験	コーディネーター
2	4月16日(金)	プロジェクト準備(1)	コーディネーター
3	4月23日(金)	講義(内容未定)	(未定)
4	5月 7日(金)	アドバイザー経験者に聞く	(未定)
5	5月14日(金)	文献講読	コーディネーター
6	5月21日(金)	外国人教師の視点から	(未定)
7	5月28日(金)	プロジェクト準備(1)	コーディネーター
8	6月 4日(金)	プロジェクト準備(2)	コーディネーター
9	6月11日(金)	プロジェクト実施(1)	コーディネーター
10	6月18日(金)	プロジェクト実施(2)	コーディネーター
11	6月25日(金)	プロジェクト実施(3)	コーディネーター
12	7月 2日(金)	報告書作成	コーディネーター
13	7月 9日(金)	まとめ	コーディネーター

注) スケジュールの内容や順序に若干の変更の可能性がある。

(4) オンライン研究コース「外国人児童・生徒のための日本語教育を考える」

コーディネーター：池上摩希子，金田智子，谷啓子，他

[目標]

参加者がテーマに関連した自分自身の実践活動を内省し，<内省的実践家>として成長するとともに，多様な教育現場，文化環境にいる仲間と協働でコースを運営する能力を育成することの2点を目標とします。

[概要]

文献を読みながら自己の実践に関して考えたことを元に，他の参加者やコーディネーターとメーリングリスト上で話し合いを進めます。実践を通して感じたことや疑問に思ったことをメールに表し発信することを週1回程度行い，議論を進めていきます。

[オンライン研究コース「外国人児童・生徒のための日本語教育を考える」参加要件]

インターネットにアクセスできるコンピュータが使える環境であること。海外からの参加の場合，日本語が読め，入力ができる環境であることが前提です。

[進め方]

コースの具体的実施方法，運営方法，課題図書等を参加者に通知：4月9日まで

コース開始日： 4月9日

終了日： 7月2日

(予定)

週	活 動 内 容
0	コースの進め方等を知る
1	オリエンテーション 自己紹介 / 文献受領
2	文献購読 ディスカッション
3	文献購読 ディスカッション
4	参加者側からの文献提示
5	進め方についてのディスカッション
6	文献購読 ディスカッション
7	文献購読 ディスカッション
8	文献購読 ディスカッション
9	文献購読 ディスカッション
10	修了レポートについてのディスカッション
11	修了レポート作成
12	修了レポート提出

この続きのページは受講申請書の後に続きます。

(5) オンライン研究コース「教材作成実践プログラム」

コーディネーター：古川嘉子，富谷玲子，島田徳子
アシスタント：2名程度

[目標]

参加者各自の教育現場で、自立的に教材作成を行っていきけるようにすることを目標とします。また、日本語教師の教材作成を通じたネットワークを作り、継続的に相互研修が行えるような環境を作っていくことも目指します。

[概要]

日本語を教える中で、「学習者に適した教材を作りたい」「主教材にあった補助教材を作りたい」と考えながらも「どうやって作ったらいいのかわからない」「自信がない」と躊躇してしまうといった経験を持つ人もいます。

「教材作成実践プログラム」は、教材作成を実践しようとしている日本語教師同士で、インターネット上で議論を交わしながら教材を作成することを目的としたコースです。

「教材制作ではどんな点を考慮するとよいのか」「教材作成にはどんなプロセスがあるのか」について共に考えていきたいと思えます。

MS Wordなどのソフトウェアを使ってタスクシート・補助教材・テキスト（コースのための主教材）などを実際に作成します。さらに、作成した教材について参加者間の討議を通して、各自の教育現場に合った教材作成のあり方を考えることも目的とします。

[オンライン研究コース「教材作成実践プログラム」参加要件]

インターネットにアクセスできるコンピュータが使える環境であること。海外からの参加の場合、日本語が読め、入力ができる環境であることが前提です。

MS Word, Excelなどで教材や文書作成経験を有すること。

同じ職場・地域のグループでの参加を歓迎する。グループ参加の場合人数は2～3人を1グループとする。一人で参加することも可能。

[進め方]（予定）

週	活 動 内 容
0	課題文献送付：『教材設計マニュアル』鈴木克明
1	開講式・オリエンテーション 自己紹介，自己の課題を紹介しあう 文献講読
2	文献講読 教材分析 演習：教材作成プロセスについて（掲示板などを使って討論）
3	教材分析 結果の掲示+フィードバック（FB） 演習：教材設計の流れ（課題文献を参考に）
4	教材作成の具体的な計画立案と検討（掲示+FB）
5	教材作成計画（スケジュール）の決定 シラバス等内容面の検討
6	シラバス決定 教材の具体物（サンプル）検討
7	教材試用版作成と検討
8	教材試用版完成 試用開始・報告と検討
9	教材試用版の評価
10	教材と試用結果に対する相互評価
11	教材と試用結果に対する相互評価
12	振り返り 今後の教材完成計画

3. 期間, 曜日, 時間

2004年4月9日(金) ~ 7月30日(金)

午後6時30分 ~ 9時30分

(1) 研究論文コース

金曜日

講義は4月9日から7月2日までで,その後7月12日までに修了レポートを提出する。
7月30日修了式予定。

(2) テーマ別研究コース

金曜日

講義は4月9日から7月2日までで,その後7月12日までに修了レポートを提出する。
7月30日修了式予定。

(3) 海外アドバイザー活動研究コース

金曜日

講義・活動は4月9日から7月9日までで,その後7月16日までに修了レポートを提出する。7月30日修了式予定。

(4)(5) オンライン研究コース

活動は4月9日から7月2日までで,その後7月12日までに修了レポートを提出する。
7月30日修了式予定。

注意: 並行して複数のコースを受講することはできません。

4. 場 所

(1) 研究論文コース

(財) 言語文化研究所附属東京日本語学校

東京都渋谷区南平台町16-26 (渋谷駅南口より徒歩10分)

(2) テーマ別研究コース

(3) 海外アドバイザー活動研究コース

国際交流基金日本語国際センター

埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-36 (京浜東北線北浦和駅より徒歩8分)

5. 募集人員

(1) 研究論文コース

15名

(2) テーマ別研究コース

15名

(3) 海外アドバイザー活動研究コース

15名

このコースの最小催行人数を8名とします。

(4) オンライン研究コース「児童・生徒」

15名

(5) オンライン研究コース「教材作成」

15名程度

「教材作成実践プログラム」は同じ機関,地域の2~3名のグループ,または個人での参加が可能です。

6. 応募条件

A. 原則として海外あるいは国内の日本語教育機関で3年以上の教師経験を有する者。

B. 次のことを満たすことが望ましい。

(1) 将来海外の日本語教育機関で日本語教育に従事する意志を有する者。

(2) 日本語教育専攻またはその他関連分野専攻の大学院を修了している者。

(3) アドバイザーコースについては海外での教育経験があること。

C. オンライン研究コースでは,インターネットにアクセスできるコンピュータが使える環境であること,海外からの参加の場合日本語が読め,入力ができる環境であることが前提です。

D. オンライン研究コース「教材作成」については, MS Word, Excelなどで教材や文書作成経験を持っていることが参加要件です。(P.5参照)

7. 応募手続

(1) 提出書類

受講申請書

巻末の申請書フォームをご使用ください。日本語教育学会ホームページからダウンロードすることもできます。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/menu-kenshu.htm>

コース別に課された課題作文

「研究論文コース 論文基礎」

書式：A 4判 1,200字程度。右上に希望コース(「研究論文コース」)および氏名を明記すること。
課題：現在取り組もうとしている研究のテーマなどについて具体的に書いてください。

「テーマ別研究コース 「中級」を考える - 聴解と会話を中心として - 」

書式：A 4判 1,200字程度。右上に希望コース(「テーマ別研究コース」)および氏名を明記すること。
課題：聴解および会話教育についてご自分のこれまでの実践の場で見出された問題点について書いてください。その問題点に関して、今までどのような取り組みをしてきたかについても触れてください。

「海外アドバイザー活動研究コース」

書式：A 4判 1,200字程度。右上に希望コース(「アドバイザーコース」)および氏名を明記すること。
課題：アドバイザーの役割とはどのようなものか、について書いてください。

「オンライン研究コース 外国人児童・生徒のための日本語教育を考える」

書式：A 4判 1,200字程度。右上に希望コース(「オンライン 児童・生徒」)および氏名を明記すること。
課題：ご自身のこれまでの実践の場で見出された問題点についてテーマに則して書いてください。その問題点に関して、今までどのような取り組みをしてきたかについても触れてください。

「オンライン研究コース 教材作成実践プログラム」

書式：A4判 1,200字程度。右上に希望コース(「オンライン 教材作成」)および氏名を明記すること。
課題：これまでどのような教材を作成したか、そのときどのような点に気付いたかを書いてください。(授業で使うハンドアウト、タスクシートでも、本格的な出版教材でもかまいません。)このコースでどのような教材を作成したいと考えているか、またはこのコースにどのようなことを期待するかを書いてください。

4コースいずれの場合も、これまでに日本語教育研究コースを受講したことのある方は前回受講後の取り組みについてもできるだけ述べてください。

(2) 受験料 3,000円

オンライン研究コース「教材作成」でグループ参加の場合一括で3,000円。

支払い方法

郵便小為替

銀行送金(振込人名は受講申請者本人にしてください。)

口座名義：(社)日本語教育学会

三井住友銀行神田支店 普通預金 6426065

海外からの送金は銀行でなくクレジットでお願いします。

クレジット(海外からの送金の場合のみ。まず下記(3)提出先に連絡しクレジット支払申込用紙を取り寄せてください。)

[受験料は応募者の理由による場合には返却しません。]

(3) 申請方法および締切日

次の締切日までに書留郵便またはメール・FAXで送付してください。

2004(平成16)年2月10日(火)必着

(4)書類提出先

社団法人日本語教育学会 教師研修委員会
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館
電話 03-3262-4291 FAX 03-5216-7552

〔注：提出書類は返却しません。〕

kyoshikenshu@nkg.or.jp (メールで送る場合はメールタイトルを「研究コース応募」としてください。)

8. 選考

(1)研究論文コース，テーマ別研究コース，海外アドバイザー活動研究コース

第一次選考 書類選考

結果通知：2004(平成16)年2月23日(月)

第二次選考 面接

面接日：2004(平成16)年2月28日(土)

時間は第一次選考結果の通知の際にお知らせします。

面接会場：国際交流基金日本語国際センター

結果通知：2004(平成16)年3月2日(月)

(2)オンライン研究コース(書類選考のみ)

結果通知：2004(平成16)年3月2日(月)

〔選考内容等についての照会にはお答えいたしかねます。〕

9. 受講料

各コース 40,000 円。ほかに教材費実費負担あり。

オンライン研究コース「教材作成」でグループ参加の場合一括で 60,000 円。他に教材費実費負担あり。

〔納入された受講料は、開講後は事情のいかんにかかわらず返却しません。〕

10. 修了

(1)研究論文コース

修了課題：研究計画書。目安は A4 判用紙 4～5 枚程度。

(2)テーマ別研究コース

修了課題：レポート。目安は A4 判用紙 4～5 枚程度。

(3)海外アドバイザー活動研究コース

修了課題：グループプロジェクトの報告書及び個人報告書作成(後任者への引継ぎ，教師・アドバイザー/コーディネーターとしての内省)。枚数等はコース実施中に指定。

(4)オンライン研究コース「外国人児童・生徒のための日本語教育を考える」

修了課題：レポート(分量，内容等コース中に告知)。

(5)オンライン研究コース「教材作成実践プログラム」

修了課題：レポート(分量，内容等コース中に告知)。

2004 年度日本語教育研究コース第 2 期の予定

研究論文コース「論文基礎」

テーマ別研究コース「授業分析」

海外アドバイザー活動研究コース

オンライン研究コース「外国人児童・生徒のための日本語教育を考える」(予定)

オンライン研究コース「教材作成実践プログラム」(予定)